

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-1239

(43)公開日 平成 6 年(1994) 1 月11日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 21/02	M	9340-3E		
1/34		7445-3E		
85/50	C	7445-3E		

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21)出願番号 実願平4-46715

(22)出願日 平成 4 年(1992) 6 月10日

(71)出願人 591257856
北岡 修身
高知県吾川郡春野町弘岡下504- 1

(71)出願人 390008305
石井工業株式会社
愛媛県松山市高岡町66番地

(71)出願人 000006851
ヤンマー農機株式会社
大阪府大阪市北区茶屋町 1 番32号

(72)考案者 北岡 修身
高知県吾川郡春野町弘岡下504- 1

(74)代理人 弁理士 永田 良昭

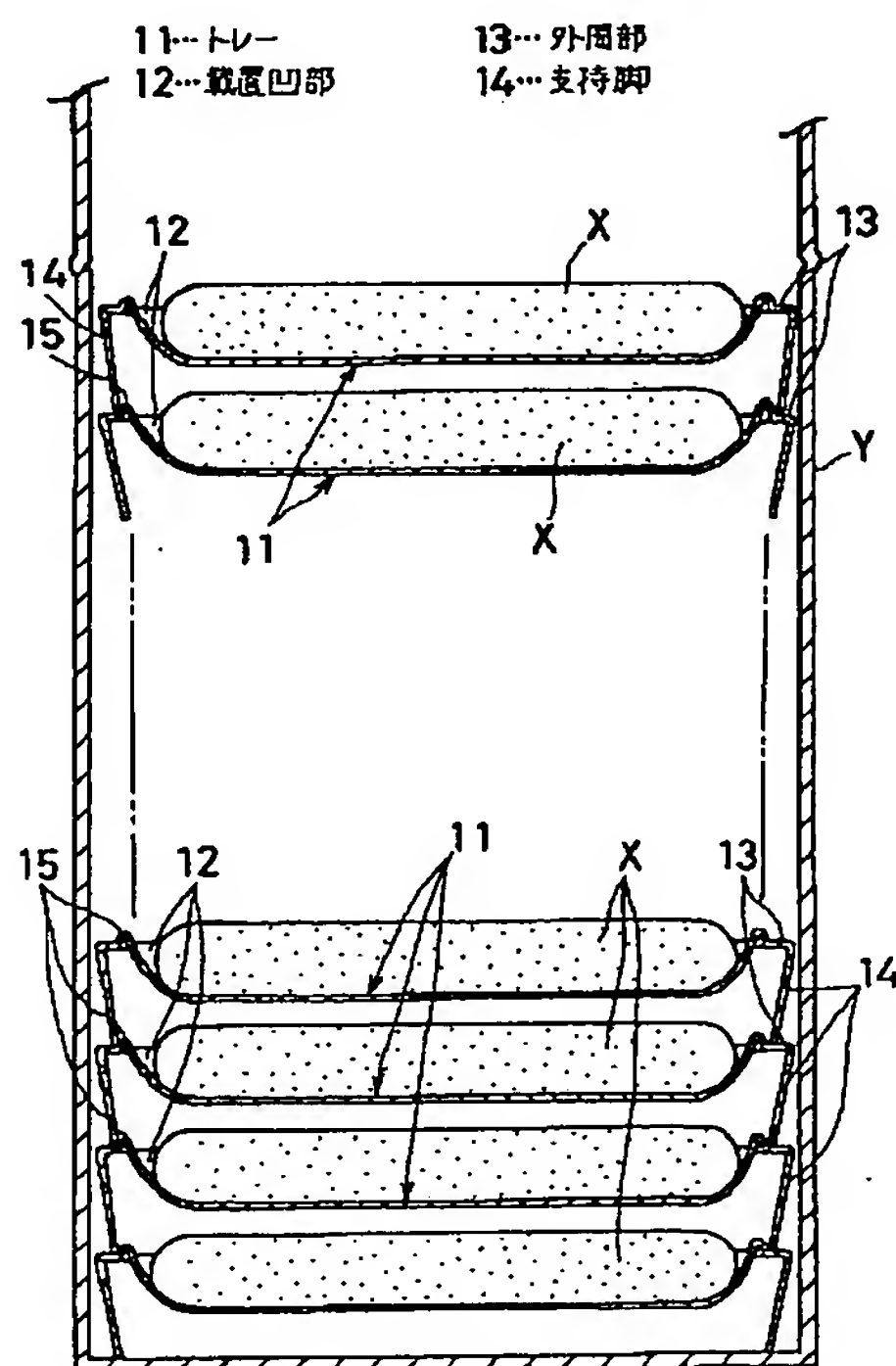
最終頁に続く

(54)【考案の名称】 長尺物用トレイ

(57)【要約】

【目的】キュウリ等長尺物を載置した状態で積み重ねても、荷重によって長尺物が傷んでしまわないようにすること。

【構成】長尺物X…を載置する載置凹部12…の外周部13に、トレイ11…を揃えて積み重ねた時に、下側のトレイに載置した長尺物の上方に適宜の空間を形成した状態で、下端が下側トレイの載置凹部外周部13上面に当接する支持脚14、14を垂設した長尺物用トレイ11。



1

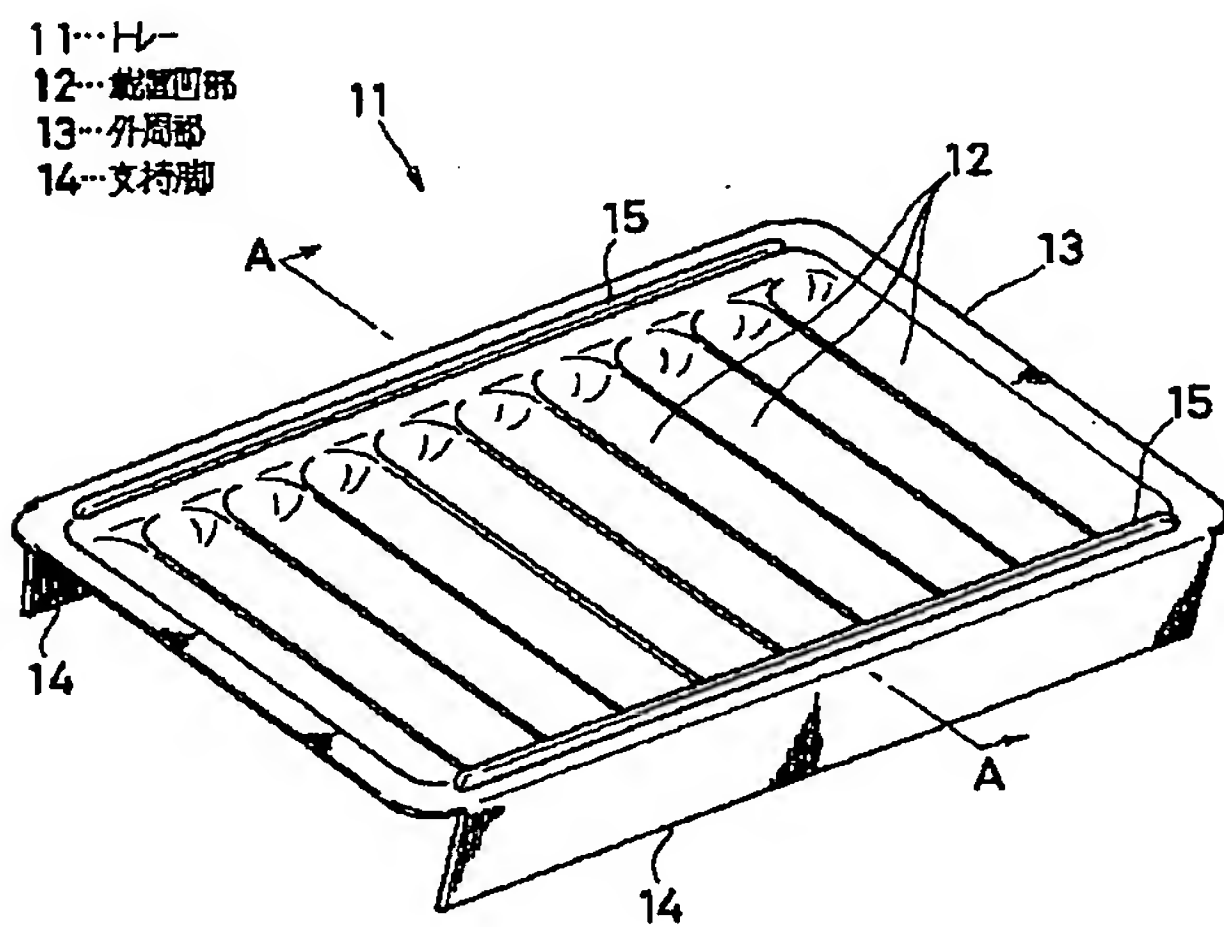
【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】長尺物載置用の載置凹部を複数列有する長尺物用トレイであって、
上記載置凹部の外周部に、トレイの外縁部を揃えて積み重ねた時に下側のトレイに載置した長尺物の上方に適宜の空間を形成した状態で、下端が下側トレイの載置凹部の外周部上面に当接する支持脚を垂設した長尺物用トレイ。

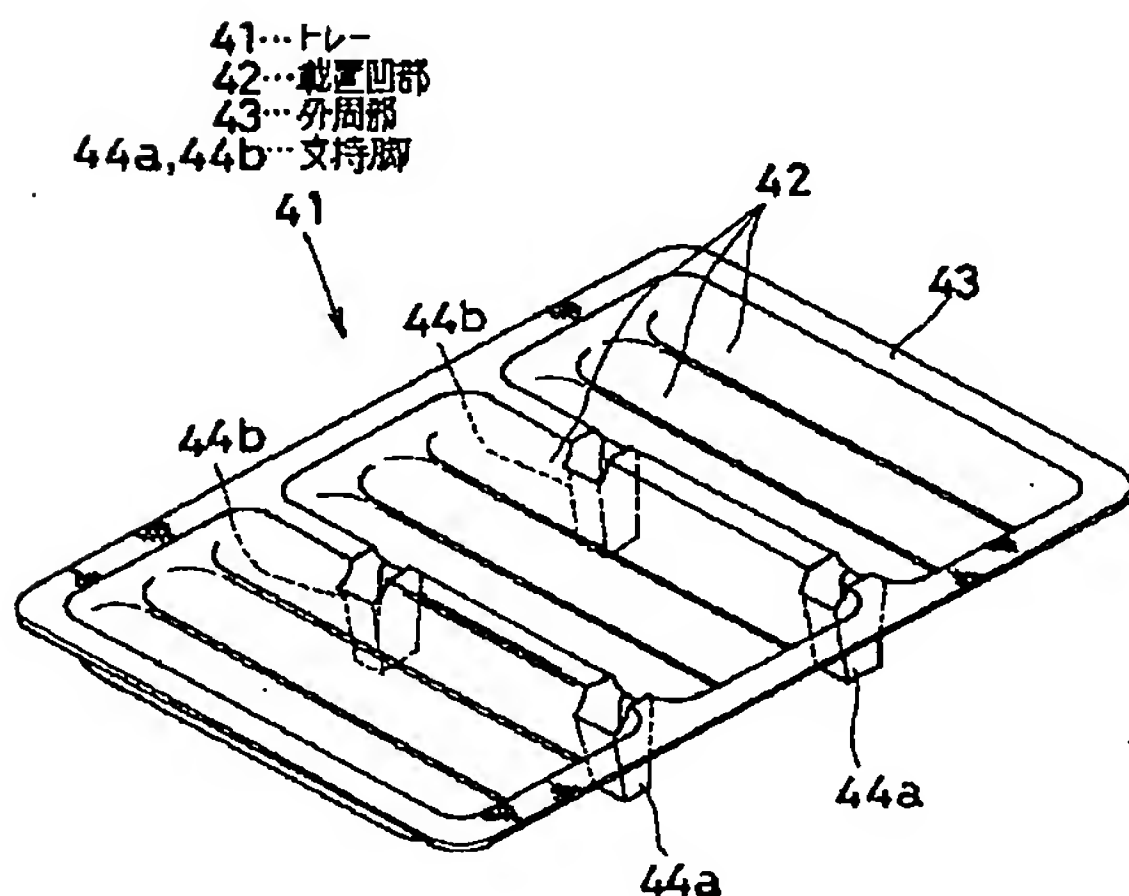
【図面の簡単な説明】

【図1】トレイを示す斜視図。

【図1】



【図6】



2

* 【図2】図1のA-A線矢視断面図。

【図3】作用状態を示す断面図。

【図4】他の実施例に係るトレイを示す斜視図。

【図5】他の実施例に係るトレイを示す斜視図。

【図6】他の実施例に係るトレイを示す斜視図。

【符号の説明】

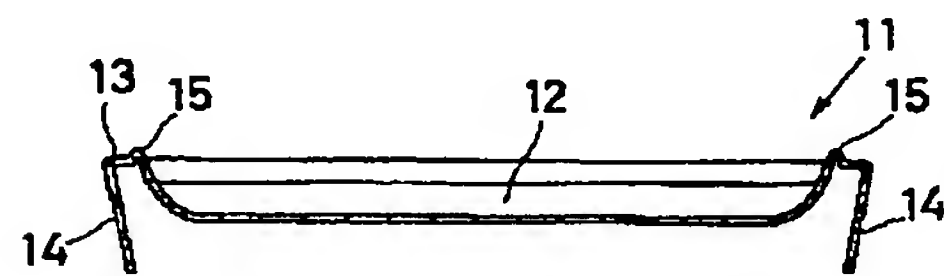
11, 21, 31, 41…トレイ

12, 22, 32, 42…載置凹部

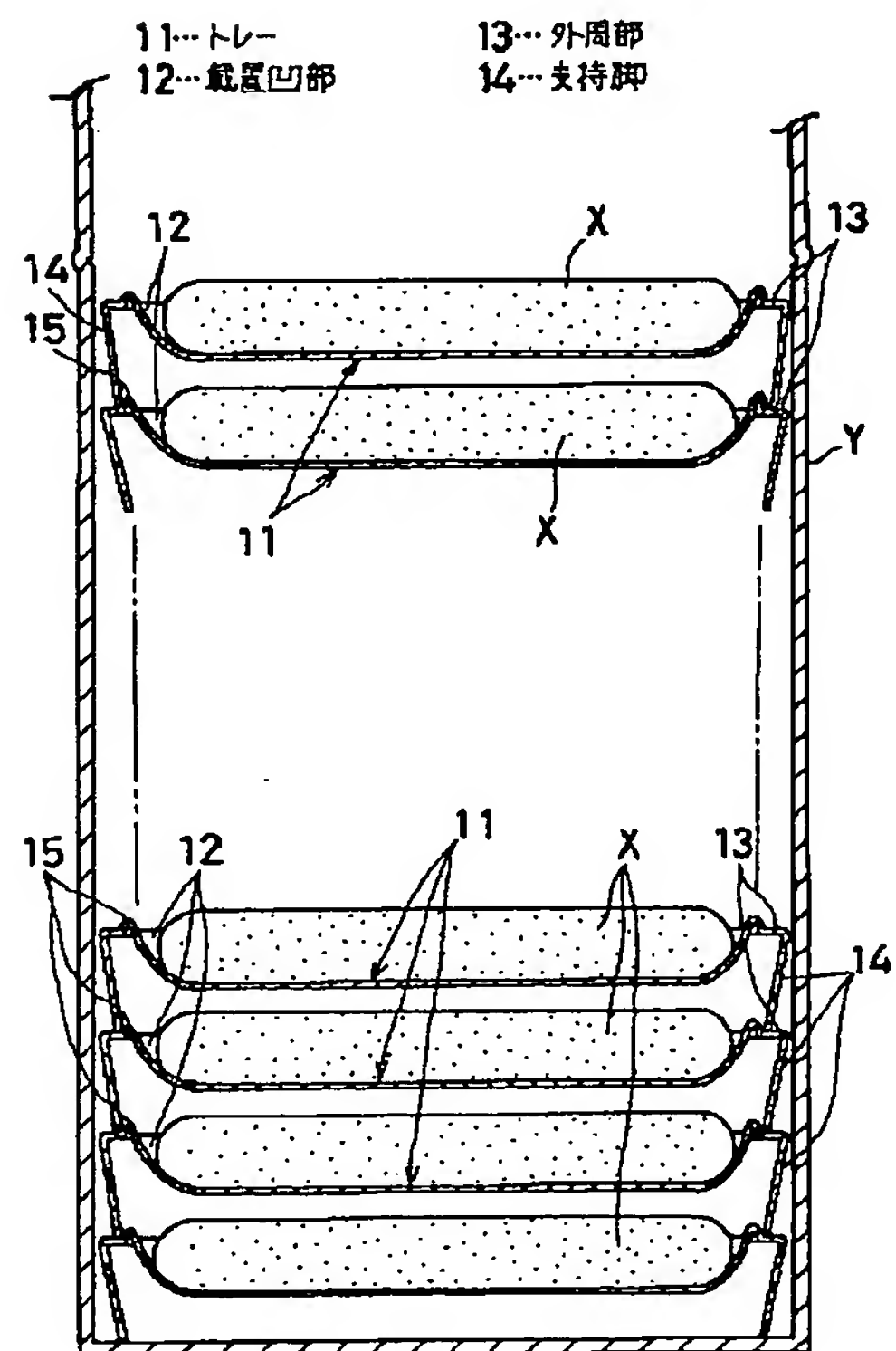
13, 23, 33, 43…外周部

*10 14, 24, 34a, 34b, 44a, 44b…支持脚

【図2】

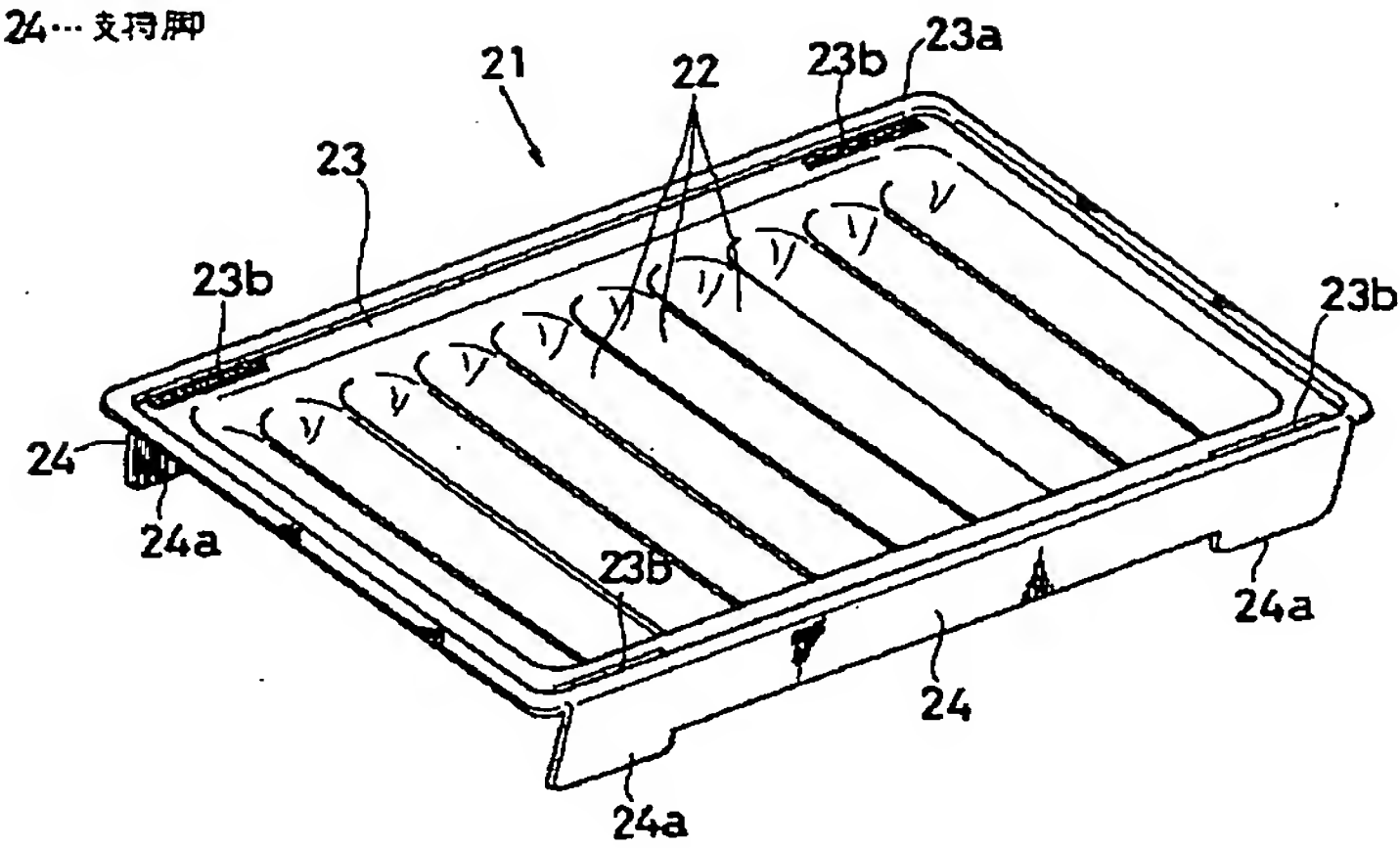


【図3】



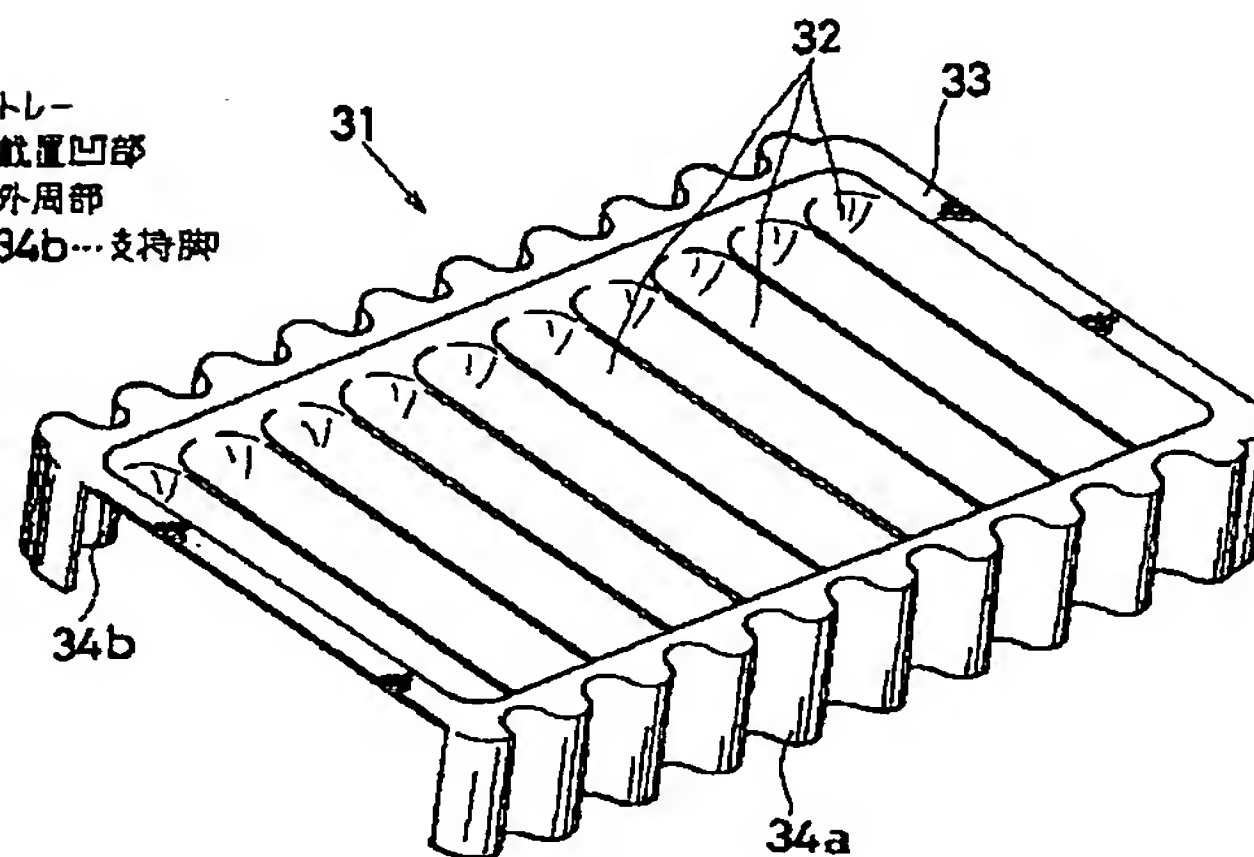
【図4】

21…トレー
22…載置凹部
23…外周部
24…支持脚



【図5】

31…トレー
32…載置凹部
33…外周部
34a, 34b…支持脚



フロントページの続き

(72)考案者 石井 徹
愛媛県松山市高岡町66番地 石井工業株式
会社内

(72)考案者 下村 孝道
大阪府大阪市北区茶屋町1番32号 ヤンマ
ー農機株式会社内

【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案は、例えば、キュウリなどのような長尺物を載置する長尺物用トレーに関し、より詳しくは、積み重ねた場合でも載置物を傷めてしまうことのない長尺物用トレーに関する。

【0002】**【従来の技術】**

長尺物用トレーは、長尺物を安定して乗せるための載置凹部を有する皿状に形成されている。

例えばキュウリ用のトレーでは、複数本のキュウリをそれぞれ別々に安定収納するため、長尺状の収納凹部を幅方向に複数並列しており、トレーの底面は波板のように凹凸状に形成されている。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

しかし、上述のように構成された長尺物用トレーに長尺物を載置し、これを積み重ねると、トレーの底面が長尺物に当接するため、積み重ねによる荷重によって、積み重ね下方の長尺物が圧迫されて痛んでしまうという難点がある。

そこでこの考案は、積み重ねても長尺物を痛めてしまうことのない長尺物用トレーの提供を課題とする。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

上述した課題を解決するための手段を実施例の図1を用いて説明すると、その構成は、長尺物載置用の載置凹部12…の外周部13に、トレーの外縁部を描えて積み重ねた時に下側のトレーに載置した長尺物の上方に適宜の空間を形成した状態で、下端が下側トレーの載置凹部の外周部上面に当接する支持脚14、14を垂設した長尺物用トレー1であることを特徴とする。

【0005】**【作用】**

すなわち、上述の構成によれば、長尺物を載置して積み重ねを行なった場合でも、支持脚が下側トレーの長尺物のない位置、すなわち載置凹部の外周部に当接して荷重を支持するので、長尺物の上方には適宜の空間が形成され、上側トレーの底面が接触することがなく、複数のトレーを広げて並べたのと同様の状態とすることができる。

【0006】

【考案の効果】

上述の結果、この考案によると、積み重ねを行なっても載置した長尺物に荷重が掛かることがないので、従来のような荷重による傷みを防止でき、長尺物の品質維持を図ることができる。

【0007】

【実施例】

この考案の一実施例を以下図面に基づいて詳述する。

図1はキュウリ用のトレー11を示す斜視図であって、この図に見られるようにトレー11は、10列の載置凹部12…を平面状の外周部13内に形成し、この外周部13の両側に、載置凹部12…の深さよりも長く（図2参照）、キュウリを載置してトレーを積み重ねても上側のトレーの底面がキュウリに接触せず適宜厚の空間が確保可能な長さの（図3参照）支持脚14、14を、若干内側方向に傾けながら下方に連設している。

なお、この支持脚14、14の傾けは、真空成形後に熱処理をして行なう。

また、トレー11の外周部13を揃えて積み重ねを行なったときに、上側トレーの支持脚14、14が当接する位置の内側に、長手方向に沿った2本の突条15、15を形成している。

【0008】

このように構成したトレー11では、図3に示すように、各載置凹部12…にキュウリX…を載置し、フィルム（図示せず）包装した後、下側トレーの突条15…の外側に支持脚14…が当接するようにしながら、箱Y内に順次積み重ねてゆく。

積み重ねられた各トレー11…においては、支持脚14…が上方から掛かる荷

重を支持し、トレー 1 1…に載置したキュウリの上方には適宜厚の空間が形成される。

【0009】

したがって、積み重ねを行なっても、トレーを広げて並べた場合と同様に、荷重による傷みの発生等を防止でき、キュウリの品質を維持することができる。

【0010】

つぎに他の実施例を説明する。

図4に示すトレー 2 1は、先の実施例の場合と同様に、載置凹部 2 2…を複数並べて形成しているが、外周部 2 3は平面状ではなく、最外縁 2 3 aを一段高く形成し、またこの外周部 2 3の両側から内側へ傾けながら下方へ連設される支持脚 2 4、2 4の下端縁には、差込み片 2 4 a…を連設している。

この差込み片 2 4 a…の連設位置は、支持脚 2 4、2 4の両端部で、これら差込み片 2 4 a…の差込みが可能な差込み溝 2 3 b…を、外周部 2 3の段差部位に形成している。

なお、支持脚 2 4、2 4の長さについては、先の実施例と同様であって、このことは、以下に示す他の実施例の場合も同様である。

このように構成した場合には、トレー 2 1の積み重ねを行なった場合に、差込み片 2 4 a…の差込み溝 2 3 b…に対する差込みによって、その積み重ね状態が安定し、不測の荷崩れ等の発生を防止でき、載置した長尺物の品質をより確実に維持することができる。

【0011】

図5に示すトレー 3 1は、合成樹脂の真空成形のみによって形成している。

上面には、先の各実施例の場合と同様に、複数の載置凹部 3 2…を並べて形成しているが、外周部 3 3の両側の外縁形状は波形で、この外縁からは波板状の支持脚 3 4 a、3 4 bを垂設している。

そして、これら両側の各支持脚 3 4 a、3 4 bの波形は、互いに対応しないように設定されている。すなわち、具体的にいえば、積み重ね時に上側になるトレーは、その積み重ね時に、支持脚の波形が下側トレーのそれと対応しないようにトレーの向きを逆にしなければ積み重ねが出来ないようにしている。

このように構成したトレー 3 1 では、真空成形だけで形成できるとともに、空のトレー 3 1 は成形時の抜き勾配のため重合することが出来るので、保管等の非使用時にスペースを取らない利点を有する。

【0012】

図 6 に示すトレー 4 1 は、載置凹部 4 2 …を 3 つずつ並べて「目」字状の外周部 4 3 を有したものであって、支持脚 4 4 a, 4 4 a, 4 4 b, 4 4 b は、内側の外周部 4 3 に 4 本形成している。

これらの支持脚 4 4 a, 4 4 a, 4 4 b, 4 4 b は、真空成形時に一括して形成するもので、その形状は、断面四角形で、先端側ほど小径となるように設定している。また、トレー一側がわの 2 本の支持脚 4 4 a, 4 4 a と他側がわの 2 本の支持脚 4 4 b, 4 4 b とは、その位置が縁から異距離に設定されている。

これは先の図 5 に示したトレー 3 1 の場合と同様に、非使用時に重合可能とし、使用時には、トレー 4 1 の向きを交互に変えることで積み重ねを可能とするためである。

【0013】

なお、各実施例に示したように、載置凹部の数や外周部の形状、支持脚の形状等については様々に変更でき、また、載置する長尺物の種類もキュウリのみではなく、例えばニンジンやナス等でもよく、載置凹部の形状はそれぞれに応じて形成すればよい。